

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 一宮市立朝日西小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒494-0014

一宮市上祖父江字高須賀18番地

E-mail asani-e@city.ichinomiya.aichi.jp

Website http://www.school.city.ichinomiya.aichi.jp/asanishi-e/

幼児児童生徒数 男子 79名 女子 89名 合計 168名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「一人一人が主人公 ～自分づくり・仲間づくり プロジェクト～」を活動テーマとして、ESDをキャリア教育の一環と捉え、ESDの実践を通して児童の地域を愛し、地域に生きる力の育成を目標とした。

具体的には、児童の自主性、地域の教材や人材の活用、総合単元的道徳学習との関連を柱に、①環境に係わる活動、②国際理解、文化多様性に係わる教育、③地域の伝統文化、文化遺産に係わる学習、④健康・福祉に係わる学習を行った。

① 環境に係わる活動

児童は、自分たちの住む町をきれいにするために、「クリーン作戦」と称して、月2回、通学路のごみを拾いながら登校している。美化委員会の児童が、昇降口でそれを受け取り、「燃えるごみ」「燃えないごみ」に分類して回収している。そうした活動は、年3回のPTA資源回収に、多くの児童が自主的に参加していることへと発展している。「混ぜればゴミ、分ければ資源」という言葉のとおり、資源を有効に活用し、リサイクルを進めることは、「地球にやさしい」活動につながっている。

② 国際理解、文化多様性に係わる教育

国際理解ワークショップでは、5年生児童が、自分たちの考えた「あいさつ」を発表し合った。ことば（音）と身振り（形）で気持ちを伝えた。子どもたちは、あいさつに「お元気で」「心配ないさ」「名前はなんていうの？」などのメッセージを込めた。ファシリテーターが、ワークショップのまとめで、「世界中の人があいさつを交わすことで、戦争や紛争がなくなるかもしれない・・・」と話された。子どもたちは、その話に真剣に聞き入り、国際理解の入り口が「あいさつ」であるということを感じとっていた。

③ 地域の伝統文化、文化遺産に係わる学習

3年生は、総合的な学習の時間に、地域に残る伝統文化「ドンカチ太鼓」について学んだ。地域のお年寄りから、お祭りの歴史やお祭りに込められた人々の願い、ドンカチ太鼓のつくりなどの話を聞いた。実際にドンカチ太鼓を体験し、子どもたちは音の響きを体中で感じとっていた。地域に残る伝統文化を、実際に見て、聞いて、体験して、郷土への愛着を高めていた。

④ 健康・福祉に係わる学習

一宮市高年福祉課の委託を受けた団体の方を講師に招いて、4～6年生が認知症サポーター養成講座を受講した。スライドや模型による説明、寸劇を通して、認知症が脳の病気であることや認知症によって困る生活場面と対応について学習した。3世代が同居する家庭が多い本校の児童は、自分の家族や身近な人が困っていたら、どんなサポートができるのかについて具体的に学んでいた。



① の写真 (キャプション)



② の写真 (キャプション)



③ の写真 (キャプション)



④ の写真 (キャプション)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(登校時)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

活用した団体 活動②：あいち国際理解教育ステーション 活動③：本郷地区の方 活動④：一宮市高年福祉課 一宮地域包括支援センター泰玄会・キャラバンメイト

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

持続可能な開発のための教育（E S D）を積極的に推進していくために、ユネスコスクールが行っている活動をできるだけ活用したり、その理念を理解するために、それに合った地域の団体や人材を活用したりして児童に意欲的に学ばせたいと考える。また、外部講師を招いての活動を多く取り入れることによって、より専門性の高い内容を児童に学ばせることができると考える。そのため、E S Dに関わる事業や活用できそうな出前授業など最新の情報収集に努め、積極的に応募しながら、児童の発達段階に応じた課題設定による年間指導計画を作成していった。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

各学年における総合的な学習の時間の年間指導計画は、学校や児童の特性、地域性に照らし合わせて、3年生では「地域学習」、4年生では「環境教育」、5年生では「福祉教育」、6年生では「国際理解教育」というように、ユネスコスクールの主な活動に関わる内容にそって継続的に取り組んできた。また、本校は全学年が単学級であるため、ときには複数の学年が合同で外部講師による出前授業を受ける機会に恵まれた。このように繰り返し学習に取り組ませることで、学びがより深まるような体制を整えている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

月2回、児童は登校時に通学路のごみを拾いながら登校する「クリーン作戦」に熱心に取り組んでいる。この活動は、本校に10年以上続くボランティア活動である。また、リサイクルボックス（紙資源の回収）やエコキャップ運動、牛乳パックの回収などにも常時取り組んでいる。こうした児童の「自分たちの住む町をきれいにしたい」「限られた資源を大切にしたい」という思いは、年3回行われるPTA主催の資源回収に、多くの児童が自主的に参加していることにも表れている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学校が運営するウェブサイトには、トップページに「ESD」のボタンを置き、本校の取組がいつでも閲覧できるようになっている。発信内容は、地域の学習、環境教育、福祉教育、国際理解教育、地元の伝統文化の紹介など多岐にわたっている。本校の児童がそれらを学習したときに、その活動内容と成果などを保護者や地域の方にすぐに見ていただけるよう、随時紹介して、本校の教育活動についての理解を得ている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

一宮市教育委員会から紹介される外部講師を招いての出前授業や本校が継続して行っている活動から、児童の持続可能な開発のための教育(ESD)に関わるものを選んで、年間計画に組み入れ実践した。平成29年度に取り組んだ主なものは、環境センター見学、古紙再生工場見学、着衣泳体験、国際理解ワークショップ、茶の湯体験、雅楽鑑賞会、狂言鑑賞・体験、人権集会、人権映画鑑賞会、助産師によるいのちの学習、福祉実践教室、認知症サポーター養成講座、JFA夢の教室などであった。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成については、実践することができなかった。ただ、国際理解教育の活動としては、全校児童を対象に「英会話指導講師(ALT)による英語活動」や「一宮市生涯学習課から派遣された国際交流員(ニュージーランド)の訪問」、5年生児童を対象に「国際理解ワークショップ」に取り組んだ。児童は、それらの活動によって、外国の言語や文化などに興味・関心をもつことができた。今後は、子どもたちのその思いが広げられるような活動に努めていきたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

月2回のクリーン作戦は、「自分たちの住む町がいつまでもきれいであってほしい」との願いから10年以上続くボランティア活動である。また、4年生では、総合的な学習の時間に「地球はぼくらの宝物」をテーマに環境教育を行い、学習発表会でゴミの分別やリサイクルの大切さを訴えた。このような環境に関わる活動に積極的に取り組んできたことで、PTA資源回収に自主的に参加する児童が増えてきた。子どもたちが、大人になっても地域を愛し、美しい環境を守っていこうという気持ちをもち続けていてほしい。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年度もユネスコスクール及びESDの理念をよく理解し、従来から行ってきた活動をESDの観点でとらえながら、児童が生き生きと活動できるような年間計画を立てる。また、道徳教育をはじめ、他の教科及び教育活動と関連させながら、児童の自己肯定感や有用感が高まるような中身のある実践を考えていく。

中心となるのは、(2)の⑧でも述べたように、「環境に関わる活動」をさらに充実させていく。具体的には、クリーン作戦やエコスクール活動などの常時活動や自主的に参加しているPTA資源回収が、ESDに深く関わっている活動であることを校内掲示やウェブサイト、通信などで広く紹介し、児童や保護者、地域の方にも理解していただくことである。

また、その他の活動分野についても、学校以外の団体や地域の人材などを積極的に活用して、子どもたちが活躍する姿を発信していきたい。